

step.4 商品の提案

福島県内11の施設で協働してつくる魔法のおかし・ぼるぼろん。菓子製造からパッケージ、販売営業まで仕事を細かく分担することで、より多くの「仕事」をつくることができる。botanippeは施設とデザイナーがワークショップを重ね、ともに商品を開発した協働商品。素朴なあたたかさとデザイン性の高さがマッチした商品となったが、コーディネート業務をみなおし、福島発のデザインプロダクトとして粘り強く商品化と流通をつづけたい。



しんせい スタッフ 富永美保さん

Staff comment

エイブルアート・カンパニーが福島県郡山市にある交流サロンしんせいを訪ねてくださったのは2012年の秋でした。それからセミナー開催や商品開発など、障がい者アートの力を数多く福島に届けてくださいました事、心よりお礼申し上げます。

わたしたちは協働事業をとおし「たくさんの方が関わる仕事(ワークシェア)」をつくってきました。

この協働は障がい者施設の協働だけに留まらず、企業が技術指導や販路に関わってくださることでより広がりのあるワークシェアとなりました。

わたしたちは一人ひとりの個性が尊重される社会の実現のため、さまざまな立場や職業の方がたと力をあわせて事業を展開させていきたいと思います。

施設
DATA

JDF被災地障がい者支援センターふくしま交流サロンしんせい
特定非営利活動法人しんせい
住所: 福島県郡山市西の内1丁目25-2 電話: 024-983-8138
URL: <http://saronsinsei.jimdo.com>

しんせい × GoodJob! 東北プロジェクト

step.1 課題を探る

困っていることは何ですか？

原発事故により避難を強いられ、仕事や居場所がなくなってしまった。慣れない環境のなかで、個々で動くのではなく、みんなで協力して仕事をする必要性を感じた。福島の課題が大きすぎて一人では立ち向かえない。震災後南相馬の事業所が集まってつくった取り組み(南相馬ファクトリー)のように、みんなの力をあわせてできることを見つける、たくさんの仕事をつくる協働の仕組みが必要。

みんなの力をあわせたい

step.2 目的を整理

課題について整理してみましょう。

それぞれの得意なものを集めてひとつのものをつくりあげる。
さまざまな施設の得意な技術や人をつなげ、より質の高い商品をつくりていきたい。
企業からの支援も物質的支援から技術的支援に移行させ、継続的なものづくりを可能にしたい。

「もの」づくりと同時に「仕組み」づくり

step.3 実践する

課題を解決するために何をしたらいいか考えましょう。

施設の現状を知り、新しい可能性を探るためにワークショップを開催。そこで生まれたものを元に商品を企画し、それぞれの施設の特性をいかした仕事を分担する。
企業からの支援に対し、より良い方向を探り、長くつづく関係づくりをすすめる。
施設同士をつなぐものをつくるだけでなく、ネットワークのハブ的存在として企業や外部の中間支援団体との関わりを築いていくことをめざす。

福祉と社会をつなぐハブになる